

グルメピック第37回大会 新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン

本ガイドラインは、グルメピック第37回大会における新型コロナウイルス感染予防を目的としたものです。

新型コロナウイルス感染状況によっては本ガイドラインの対策方針が変更となる可能性があることを予めご了承の上、大会の参加に当たっては、本ガイドラインの内容に同意いただき、安全・安心な大会運営へのご協力と感染予防への最善の努力を尽くしていただきますようお願いいたします。

1 実施要領の一部変更(出場者数等)

密の回避を目的とし、各養成施設が地区大会に推薦できる人数を1校当たり1料理部門につき1名、3料理部門合計3名までに変更することとし、地区大会においても調理作業台は1台につき選手1名の使用とする。

また、全国大会への選抜人数については、授与式等、出場選手集合時の密を避けるため、合計42名(日本・西洋料理各17名、中国料理8名)とする。

なお、全国大会会場校柵については、今回に限り除外とする。

2 参加者の制限

大会(地区大会・全国大会)への参加及び作業会場等への入場は、出場選手、審査委員、コンクール実行委員、会場校スタッフ、事務局スタッフ、その他大会運営に関わると認められる者に制限する。前述に該当しない場合、全て参加、入場を禁止とする。

3 感染予防対策

(1) 参加に当たっての対策(出場選手)

- 1) 出場選手は、新型コロナウイルスワクチンを接種済みまたはPCR検査等による陰性の者とする。

大会出場の際に、「新型コロナウイルスワクチンを2回接種したことが証明できるもの」または「※PCR検査、抗原検査等による新型コロナウイルス陰性証明書」を提示すること。

※ PCR検査、抗原検査は、大会開催日を含め3日以内の陰性証明書とする。

- 2) 出場選手は、大会出場1週間前より、協会サイトにある新型コロナウイルス感染チェックシートにより体温などの健康状態等をチェックし、大会当日に同チェックシートを提出すること。(1週間の健康状態によっては出場できない場合がある。)
- 3) 以下の項目に該当する者は出場を認めないこととする。

- ① 受付時の検温において37.5℃以上の発熱が認められる者。
- ② マスクの着用がない者。
- ③ 本人もしくは家族が、濃厚接触者として自宅待機中の者。
- ④ 海外から帰国(日本に入国)して14日以内の者。

(2) 参加に当たっての対策(審査委員、コンクール実行委員、作業会場校スタッフ、事務局スタッフ)

- 1) 新型コロナウイルスワクチンを2回接種済みか、PCR検査等で大会開催日を含め3日以内の陰性であることの証明を求めるものとする。
- 2) 大会当日の時点で以下の項目に該当する場合は参加できないものとする。
 - ① 検温において37.5℃以上の発熱が認められる者。
 - ② マスクの着用がない者。
 - ③ 本人もしくは家族が、濃厚接触者として自宅待機中の者。
 - ④ 海外から帰国(日本に入国)して14日以内の者。
- 3) 大会当日から1週間以内において以下の症状に該当する場合は参加できないものとする。
 - ① 体温
37.5℃以上の熱もしくは平熱より1℃高い熱が4日以上続いた場合
 - ② 鼻水、咳、痰、喉の痛み
症状のどれかが4日以上続いた場合
 - ③ 頭痛、下痢・嘔吐
症状のどれかが4日以上続いた場合もしくは大会当日2日前から続いた場合
 - ④ 息苦しさ、倦怠感・筋肉痛、味覚・嗅覚異常、家族に発熱・体調不良
症状のどれかが1日でもあった場合

※ 倦怠感・筋肉痛、家族の発熱は、新型コロナウイルスワクチン接種の副反応である場合は問題なし。

(3) 会場での感染予防にかかる整備、対策

- ① 協会が支給する不織布製マスクの着用
- ② 作業会場入場時の検温(非接触型検温機の設置)
- ③ 作業会場・控室・作業教室入場時の消毒(消毒アルコール等の設置)
- ④ 選手受付時の飛沫防止シート等の設置
- ⑤ 作業教室・各種控室等の換気の徹底(30分に1回をめぐりに換気を実施)
- ⑥ 選手控室での選手の座席指定(座席間隔を空ける)
- ⑦ 作業教室では、調理台は1台につき選手1名の配置、手指洗浄の徹底
- ⑧ 事務局控室における座席の飛沫防止対策
- ⑨ オリエンテーションや授与式等、選手が集中するプログラムの変更、時間短縮、または座席間隔(1m以上)の徹底
- ⑩ 作業終了時や授与式等での発声の回避(挙手による)

- ⑪ 参加者へ昼食を提供する場合における飛沫防止対策
- ⑫ 上記以外のソーシャルディスタンス、飛沫防止に関する対策行動
- ⑬ 抗原検査キットの準備(抗原検査キットの扱いについては、4の(1)による)
- ※ 非接触型検温機、消毒、飛沫防止にかかる設備、抗原検査キットの準備にかかる経費は協会が負担する。

4 大会当日または終了後に感染の症状が出た、もしくは感染が判明した場合の措置

- (1) 調理作業時(作業後)に発熱等の感染が疑われる症状が出た場合、抗原検査キットにより緊急検査を行うとともに、陽性・陰性に関わらず、所属養成施設等の緊急連絡先へ連絡する。(抗原検査キットを作業会場であらかじめ準備する。)

陽性の判定が出た場合、大会事務局は、至急、保健所へ連絡するとともに、指示を仰ぎ、その結果を大会参加者に連絡する。

※1 出場選手が調理作業中に症状が出た場合、調理作業は中止し、別室にて待機とする。

※2 保健所の指示如何によっては、大会を中止する。

- (2) 出場選手をはじめとする大会参加者は、大会終了後2日以内に、感染が疑われる状態となった場合及び感染が判明した場合、保健所、大会事務局へ連絡を行い、保健所の指示を仰ぐ。

また、感染が判明した場合、大会事務局は、大会参加者へその旨を連絡する。

5 緊急メッセージ送信用メールアドレスの登録

4の(2)のとおり、大会終了後に感染者が出た場合に参加者全員に連絡を行うため、大会事務局は参加者のメールアドレスの事前登録を求める。

6 作業会場校への補償

地区大会、全国大会の実施において、コロナウイルス感染者が発生した場合、ウイルス感染に伴う施設消毒等の会場校の費用負担については協会が補償する。

7 報道関係者への対応

- (1) 大会当日の取材要員数は必要最低限に収めるよう要請する。

- (2) 当日の取材関係者には、「新型コロナウイルスワクチンを2回接種したことが証明できるもの」または、「^{*}PCR検査、抗原検査等による新型コロナウイルス陰性証明書」の提示を求める。

※ PCR検査、抗原検査は、大会開催日を含め3日以内の陰性証明書とする。

- (3) 大会当日の時点で取材関係者が以下のいずれかに該当する場合は、取材を禁止する。

- ① 検温において37.5℃以上の発熱が認められる者。
 - ② マスクの着用がない者。
 - ③ 本人もしくは家族が、濃厚接触者として自宅待機中の者。
 - ④ 海外から帰国(日本に入国)して14日以内の者。
- (4) 大会当日から1週間以内において取材関係者が以下の症状に該当する場合は取材を禁止する。
- ① 体温
37.5℃以上の熱もしくは平熱より1℃高い熱が4日以上続いた場合
 - ② 鼻水、咳、痰、喉の痛み
症状どれかが4日以上続いた場合
 - ③ 頭痛、下痢・嘔吐
症状どれかが4日以上続いた場合もしくは大会当日2日前から続いた場合
 - ④ 息苦しさ、倦怠感・筋肉痛、味覚・嗅覚異常、家族に発熱・体調不良
症状のどれかが1日でもあった場合
※ 倦怠感・筋肉痛、家族の発熱は、新型コロナウイルスワクチン接種の副反応である場合は問題なし。
- (5) 作業会場での取材時は、下記の対応を求める。
- ① 協会が用意するマスク、白衣を着用する。
 - ② 3密を避ける。
 - ③ 当日の出場選手への取材は禁止する。選手以外の参加関係者へ取材する場合は、取材対象者と1m以上の距離をとる。
- (6) 大会終了後に感染の症状が出た、もしくは発症した場合は、4(2)に準ずる。

8 その他

- (1) 政府や開催地の自治体からの要請によっては、大会を中止する。
- (2) 本ガイドラインに記載されていない事象が発生した場合、協会が協議の上対応を図る。
- (3) 主催者(大会事務局)は、本ガイドラインを順守せずに新型コロナウイルスの感染者となった場合や感染者への濃厚接触となった場合、または本大会が感染源であると特定できない場合については責任を負わないものとする。